

報 告

近畿病院図書室協議会 第137回研修会

研修部

日 時：2015年11月14日(土) 10:00~17:00

場 所：星ヶ丘医療センター新会議室 AB

テーマ：病院図書館と緩和ケア

プログラム：

1. プロダクトレビュー (敬称略)
 - ・医学書院
 - ・医学中央雑誌刊行会
 - ・サンメディア
 - ・シュプリンガー・ジャパン
 - ・EBSCO International
 - ・エルゼビア・ジャパン
 - ・ユサコ
2. ギアチェンジをサポートする情報提供
京都医療センター 腫瘍内科 安井久晃氏
3. がん患者さんと家族を支えるための図書館
キャンサーリボンズ 岡山慶子氏
4. 当院の緩和ケアにおける薬剤師の関わり
姫路聖マリア病院 薬剤部 岩崎祐子氏
5. 当院のがんライフサポートと緩和ケアにおける看護師の役割
淀川キリスト教病院 看護部 杉田智子氏
6. 星ヶ丘医療センター図書室見学

参加者数：29名

(会員14, 会員外1, 講師5, 企業9)

第137回研修会は、「病院図書館と緩和ケア」をテーマに企画した。2人に1人はがんに罹る時代、われわれ病院図書館員もがんや緩和ケアにかかわるスタッフ、患者さんまたは家族や親族らががんとかかわる機会がある。そんな中で、どのようなサポートができるか、どのような知

識が必要かを学ぶことができる研修会となった。

午前中のプロダクトレビューでは、企業の皆さまより各社の製品やコンソーシアムの内容などをご説明いただいた(図1)。

企業の皆さまは毎回同じ内容にならないようにご配慮くださり、今回も新たな知識を得ることができた。特に、雑誌の提供元の変更、パッケージから抜ける雑誌、新たに追加される雑誌の情報をまとめて入手できたのが役立った。他にもデータベースの今後のバージョンアップ計画など役立つ情報を得られた。

午後のプログラムは、緩和ケアやがんの患者



図1 プロダクトレビュー

さんと日々向き合っているスペシャリストの皆さまにご講演いただいた(図2)。

まず4人の講師が共通してお話しされたのは、「おおよそ2人に1人が一生のうちにがんと診断される。3人に1人ががんで死ぬ時代」「がんはありふれた病気で、誰もが無関係ではない。そ

して必ずしも死の病ではない」ということである。

安井氏からは、緩和ケアやがんに対する基本知識、特に医療従事者も含め多くの人が思いこんでいるがんや緩和ケアに対する知識について、正しい知識や情報、入手方法をお教えいただいた。

「がんサバイバーシップ」については、がんを経験した方は暮らしの中でさまざまな偏見や誤解、無理解に触れ、困難を抱えていることをお話しいただいた。社会全体で解決していかなければいけない問題であり、正しい情報を提供するというわれわれの役目でもあると感じた。話題の医療否定本との付き合い方にも触れられ、とても学びの多い講義であった。

岡山氏からは、がん患者さんと家族を支えるための活動について、また、キャンサーリボンズが図書館と連携して行っている活動についてお話しいただいた。本の持つ力、本を朗読することによる効果など、図書館員の私達も忘れがちなことに改めて光を当てていただいた。

薬剤師の岩崎氏からは、緩和ケアでの薬剤師のかかわりをお話いただいた。

緩和ケアにかかわる薬剤師は、スタッフはもちろん、患者さんに直接かかわり、その役割の多さに改めて感心した。安全管理や新薬など知識のブラッシュアップ、教育…と多岐にわたり、図書館のサポート、連携の必要性を感じた。

緩和ケア認定看護師の杉田氏からは、緩和ケアにかかわる看護師の役割や実際に患者さんとかかわる中で、こんなことを知ってほしい、こんなことがあったよ、という現場の声を織り交ぜながら講義いただいた。

病院のスタッフとしての知識はもちろんのこ

と、今後私たちが生きていく上で、がんや緩和ケアとのかかわりに必要な知識、心構えをお教えいただいた。

質疑応答・意見交換では、特にがん患者さんとかかわる機会のある図書館員からの質問が寄せられた。講師、参加者それぞれの意見が交換でき今後の取り組みの参考になった。

会場の星ヶ丘医療センター様には、職員用図書室と患者図書室を見学させていただいた。どちらも利用者のことを考えられた使いやすい場所にあり、工夫されている部分などとても参考になった。図書室担当者の加藤氏には会場の提供や当日の運営にお心配りいただき感謝している。

研修会の資料は、4人の講師の皆さまからお許しいただき、「近図雲書庫」にて公開する。患者さんへのサービスの有無にかかわらず、病院スタッフとしてはもちろんのこと、これから生きていく上で参考になる情報も得られる講義だったので、ぜひご覧いただきたい。



図2 午後の講義（講師は安井氏）

（文責：洛和会音羽病院図書室 藤原純子）